

原岐阜薬科大副学長ら発行

薬の疑問、本に

岐阜薬科大副学長兼薬効解析学研究室教授の原英彰さん(61)と同研究室の学生が、薬などの疑問を解説する本「なにはともあれ元気が一番」を発行した。学生目線で一般の人にも分かりやすい構成にした。目の病気や健康に関する食事などの幅広いテーマを扱い、原さんは「皆が元気に生活してほしいとの思いを込めた」と話している。

(高橋友基)

本は、普段から疑問に感じているが、人に聞くにはためらってしまう薬に関する初歩的な疑問に答えようと原さんが企画。学生に相談したところ、分かりやすい対話形式が良いとの提案を受け、学部生と大学院生の計11人と共同で発行した。



「元気が一番」願い込め分かりやすく

内容は、薬が作用する仕組みや薬の飲み方のルール、医薬品開発の流れ、覚せい剤の恐ろしさなどを、本に登場する一般人の疑問に、原さんが回答する形式となっている。

生活習慣病、脳卒中、がん、心臓病といった病気、健康を維持する食事も扱う。白内障や老眼の仕組み、目の健康維持の秘訣、パソコンやスマートフォンなどから発せられる「ブルーライト」の問題などの目に関する話題も紹介している。

構想から約2年かけて完成した。発行に携わった大学院博士課程2年の安藤菜さん(26)は「薬に関して家族だったら何に疑問を感じているのかという視点を取り入れるなど、わかりやすさを大切にしたい。無事に完成してうれしい」と笑顔を見せる。

207ページ。A5判。1500円(税抜き)。本のインターネット通販サイト「honto」で購入可能。4月初旬から全国の書店で注文できる予定。

薬などの疑問を解説する本を発行した原英彰さん(右)と安藤菜さん。岐阜薬科大